

事業事前評価表

国際協力機構アフリカ部アフリカ第三課 1. 案件名 (国名)

国名：ザンビア共和国

案件名：ルサカ南部地域居住環境改善計画

(The Project for the Improvement of the Living Environment in the Southern Area of Lusaka)

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における都市開発セクターの現状と課題

ザンビア共和国（以下、ザンビア）では、急激な人口増、特にルサカ都市貧困層の急増と相まって、コンパウンド（未計画居住区）が形成されたことにより、無秩序な都市拡大が進んでいる。

JICAは経済成長による都市の拡大に伴う無秩序な開発を抑制する観点から、都市交通ネットワークの整備を重要課題としており、開発調査「ルサカ市総合都市開発計画調査」（2007～2009）において、特に都市骨格道路の渋滞解消を急務として、バイパスや居住区内幹線道路整備を通じ、計画的な居住区創出の必要性を指摘した。

本事業は、幹線道路建設、未舗装道路整備、これに伴う排水施設整備を目的としており、本事業を通じた適切な居住区域の整備、排水施設整備等により、適切な区域への居住による社会サービスの享受が可能となる。また、対象地区に近年徐々に発生しているコンパウンド（未計画居住区）の増加とこれに伴う富裕層と貧困層の格差拡大の防止に資することが期待される。

さらに、将来的に内環状道路（IRR）となり得る道路及びルサカ南部複合的経済特区（LS-MFEZ）へ繋がる道路が整備されることにより、LS-MFEZの開発の進展とも相まって、首都経済活動の円滑化による都市貧困住民の雇用機会創出が図られ貧困削減に貢献するとともに、首都における物流の活性化にもつながることが考えられる。

(2) 当該国における都市開発セクターの開発政策における本事業の位置づけ

第5次国家開発計画は輸送コスト削減を通じた富の創出、貧困削減、経済発展のための資源の効率的活用を目標とし、現存インフラ保全と経済復興、環境、及び社会サービスを支える新規インフラ建設を施策としている。

(3) 都市開発セクターに対する我が国及びJICAの援助方針と実績

本件は、ザンビアの経済活動促進を通じた貧困削減の観点から我が国の援助方針と合致し、また、JICAにて策定をしている「産業基盤インフラ支援プログラム」で述べている「経済発展に資する産業都市・地域及び基幹物流網に関連するインフラを優先的に整備する。」に合致する。

なお、2008年にTICADIVで来日した故ムワナワサ大統領と福田元首脳による首脳会談でも要請されており極めて重要。

(4) 他の援助機関の対応

道路分野では他ドナーは国際回廊及び地方道路の整備に重点を置いており本件との重複はない。

3. 事業概要

(1) 事業の目的（協力プログラムにおける位置づけを含む）

ルサカ市において、市内の内環状道路、LS-MFEZへのアクセス道路、同アクセス道路と現存するルサカ市内の道路との接続道路の整備と、これに伴う排水施設整備を行うことにより、市民の生活環境を改善し、あわせて首都における物流の円滑化を図る。(2) プロジェクトサイト/対象地域名

ルサカ市内

(3) 事業概要

1) 土木工事、調達機器等の内容

(幹線道路建設)

- 内環状道路 4.88km
- LS-MFEZ アクセス道路 4.95km
- 内環状道路延長 2.58km
- ミニバイパスリンク 1.22km

(未舗装道路整備)

- ベンベラ道路 0.95km
- 道路側溝、信号機、街路灯、交通標識、路面標示（横断歩道を含む）の設置

2) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

詳細設計、施工監理

(4) 総事業費/概算協力額

総事業費 38.4 億円（概算協力額（日本側）：30.0 億円、ザンビア国側：8.4 億円）

(5) 事業実施スケジュール（協力期間）

2011 年 7 月～2014 年 11 月を予定（計 41 ヶ月。詳細設計、入札期間を含む）

(6) 事業実施体制（実施機関/カウンターパート）

実施機関：地方自治住宅省及びルサカ市役所

(7) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類：B

② 影響と緩和・軽減策

- A) 環境許認可：本事業に係る環境影響評価（EIA）報告書は、実施機関であるルサカ市役所が作成を終え、環境評議会（ECZ）へ承認申請済。現在、ECZ にて審査中であり、2011 年 9 月に承認を得る見込み。
- B) 汚染対策：事業開始後の大気汚染・騒音等については、速度等の交通規制の遵守の確認等の対策を講じる。また、工事中の大気汚染、騒音については、散水、工事時間帯の制限等の対策を採る。
- C) 自然環境面：事業対象地域は国立公園等の影響を受けやすい地域またはその周辺に該当せず、自然環境への望ましくない影響は最小限であると想定される。
- D) 社会環境面：本事業では、150 人程度の非自発的住民移転を伴い、同国国内手続き及び住民移転計画に沿って移転が進められる。
- E) その他・モニタリング 本事業では、工事中は ECZ のサポートの元、工事請負業者が大気環境、騒音等についてモニタリングする。供用時は、ECZ のサポートの元、LCC が、大気環境、騒音等についてモニタリングする。

2) 貧困削減促進

アクセス向上により対象道路周辺地域の経済活動活性化及び貧困削減が期待できる。

3) ジェンダー

特記なし。

(8) 他援助機関等との連携・役割分担

特になし。

(9) その他特記事項

特になし。

4. 外部条件・リスクコントロール

(1) 事業実施のための前提条件

ザンビア政府よりプロジェクト実施に必要な用地が確保される。

(2) プロジェクト全体計画達成のための外部条件

2012年に予定されている大統領選挙の前後、行政能力が大幅に低下しない。

5. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

特になし。

6. 評価結果

以下の内容により本案件の妥当性は高く、また有効性が見込まれると判断される。

(1) 妥当性

本事業は2.事業の背景と必要性で記述のとおり、ザンビアのニーズならびに開発政策と十分に合致している。ルサカ市内において、経済発展のボトルネックとなりうる都市骨格道路の渋滞解消が急務となっており、また増大する貧富の格差を解消するための社会サービスの充実という観点において、本件協力は妥当である。

(2) 有効性

1) 定量的効果

指標名	基準値 (2010年)	目標値 (2017年)【事業完成3年後】
チリンジェ ¹ ～市中心 (8.2km) の走行時間 (km)、平均時速 (km)	走行時間 : 35 平均時速 : 14	走行時間 : 14 平均時速 : 35
カニャマ ² ～市中心 (3.0km) の走行時間 (km)、平均時速 (km)	走行時間 : 12 平均時速 : 15	走行時間 : 5 平均時速 : 35

2) 定性的効果

公共交通のバス等の利便性や走行速度の増加、通年に亘る道路の使用により交通コストの軽減、病院、学校、雇用へのアクセスが改善され、市民の生活レベルの向上が期待できる。

大型車のルサカ南部複合的経済特区へのアクセスが可能となり、同特区の開発が促進される。

7. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる主な指標

6.(2)1)のとおり。

(2) 今後の評価のタイミング

・事後評価 事業完成3年後

以上

¹市南東部の居住区域。現在、他の幹線道路を利用した通勤者が多く、内環状道路建設により通勤経路の分散化が見込まれる。

²市西部の居住区域。現在、ベンベラ道路を利用した通勤者が多く、同道路拡幅により渋滞緩和が見込まれる。